

つまずいている部分に  
向き合い、  
子どもたちの目線で、  
問題解決をしたかった。

子ども教育学科4年  
田中祐衣  
金津高校出身

保育士を目指すのと  
同時に、日本語を  
教えられる存在にも  
なりたと思った。

子ども教育学科4年  
齋藤可子愛  
武生東高校出身

いつか先生になった時、  
ストーリーの中で教える手法が、  
きっとためになるはず。

子ども教育学科4年  
滝本恵理  
武生東高校出身

外国人の子どもたちが、  
算数に楽しく取り組めるきっかけと  
なれますように。

子ども教育学科4年  
岩谷聖奈  
武生高校出身

みんなでアイデアを出し合って、  
絵本でもあり、教科書でもある、  
新しい教材ができた。

子ども教育学科4年  
中川琉郁  
丹生高校出身



FAA活動※

## 絵本づくりを通して、多文化教育の 課題解決にチャレンジ。



仲よし4人組が『きぼうのかけはし』という遊園地に行き、10枚のチケットを手に乗り物を選んで乗っていくというストーリー。文はポルトガル語と日本語の併用。



地元の小学校の先生への取材からスタートしたプロジェクト。5月19日に越前市への贈呈式を行いました。



今後も、外国人の子どもたちが抱える、  
教育上の壁を常に意識してほしい。



子ども教育学科  
石川昭義 教授

外国人市民が増え続けている越前市における課題解決として、算数をテーマに絵本づくりに取り組みました。きっかけは、ゼミの先輩が卒業研究で実施したアンケート。ブラジルにルーツを持つ子どもたちの多くが、算数を苦手教科としていました。今回、まず地元の小学校を訪問し、低学年を担当する先生に取材。子どもたちのつまずきが“引き算”にあると知り、物語を通して引き算が学べる絵本を企画しました。ポイントとなったのは、

違和感なく引き算に挑戦できること。小学校の先生から経験談を聞きながら、学生自らストーリーを構想し、バステルタッチの絵を描きました。今後、外国人の子どもたちが抱える学習上の壁をどうしたら克服できるか、常に問題意識を持ち続けてほしいです。今回、課題に臨んだゼミ生は、コロナ禍で外との交流が難しかった学年です。小学校の先生や印刷会社とやり取りしながら取り組めたことは、良い経験になったと思います。

※FAAとは「Fukui Academic Alliance」、つまり、人口減少や長寿命化、急速な技術変化など、福井県の大きな環境変化に対応するため、各大学等がそれぞれの魅力や特色を活かして産学官の連携を深めながら地域課題に取り組む活動です。

# 小学校実習レポート！

仁愛大学子ども教育学科の4年生は、小学校教諭の免許状取得に向け、教育実習に臨みます。実際に子どもたちと向き合う時間は、実践でしか得られない貴重な学びの機会となります。

【実習期間：2023年5月22日～6月19日】



想定外の返答に、  
うまく対応できなかった。  
先生ってすごい。

子ども教育学科4年  
赤澤朋香  
仁愛女子高校出身

実習先  
越前市大虫小学校



まず、実習前の模擬授業で、はっとさせられました。先生からアドバイスを受けたのは、漢字の書き順です。当たり前ですが、漢字の授業じゃなくても先生が書く文字は「手本」です。正しい書き順は必須なんですよ。略字もダメ。身が引き締まりました。

本番では、道徳の授業で壁にぶつかりました。回答をあらかじめ想像して質問を投げ掛けたのですが、想定外の返答をされて、オウム返ししかできずに終わりました。本当は、その返答の理由を聞いて掘り下げられると良かったのだと後になって思いました。でも、子どもたちが想像を超えてくるのは、きっといつものことなんですよ。どんな流れにも合わせて授業を作ることができる在職の先生たちは、やっぱりすごいです。

工夫した分、  
しっかり応えてくれる。  
現場で教える面白さ。

子ども教育学科4年  
高松亮太郎  
金津高校出身

実習先  
鯖江市片上小学



印象に残っているのは、導入部分で生徒たちの心をつかめたこと。沖縄県について話す授業の冒頭に、有名な食べ物など当地クイズをしたところ、楽しそうに取り組んでくれて、その後もスムーズに進行できました。もちろん、苦労した部分もありました。特に悩んだのは、生徒に主体性を持たせる方法です。まとめ方も、答え方も、生徒から能動的に引き出すためにグループワークを行いました。誰か一人が気づけばみんなで考える流れができますが、誰もわからないと時間だけが過ぎていく。時間を短くするなどの工夫が必要だと気がきました。

私は一般就職も視野に入れていますが、実習に参加して先生の面白さとやりがいを再確認することができました。

子どもたちが  
自分らしく生き生きできる。  
そのための先生に。

子ども教育学科4年  
竹内聖羅愛  
高志高校出身

実習先  
福井市六条小学校



課題も達成感も得ることができたように思います。まず、算数では、数え棒を手元に配ったことで遊び始めてしまいました。国語では、内容を盛り込みすぎてしまいました。そして、目標も達成できて、時間配分もうまくいったのは道徳です。教科書の登場人物を自分に置き換えて質問に答えてもらったところ、想定外の戸惑う返答もありましたが、想定外の素敵な返答もありました。今どきは、自閉症など特性を持った子どもも多いので臨機応変さも求められます。思い通りにはいかなければ、そこに面白さがあるのが実際の授業だと知りました。担当の先生が、「先生は研究職。自分の信念に合った教え方が見つかるといいね」と言ってくださいました。行って良かったと思える実習になりました。

## 幼児教育と初等教育をつなげて学べる価値。

実際に小学校で働いてみて、幼児教育の学びがとても役に立っていると感じます。実は、低学年では、考え方がまだ幼児に近い子どもたちも多いのです。幼児期の発達段階、5歳児の様子や園について、そして小学校との考え方のちがいを学べることは強みだと思います。また、学生の皆さんには、在学中に子どもたちと関わる機会をたくさん持ってほしいです。私自身、児童館でのボランティアなどに参加し、教科書や講義だけでは分からない子どもたちの姿や先生たちの様子を見て、勉強になりました。ぜひ、自分が子どもたちと笑顔で接しているシーンを想像しながら、自分の質の向上を目指してがんばってください。

正規採用・先輩インタビュー！

2021年度卒業生  
福井市酒生小学校・2年生担任  
北川唯月

